

大妻女大：大森正司、矢野とし子、岡本順子、食総研：津志田藤二郎、農環研：村井敏信  
 国立栄研：樋口満、野菜茶試：岩浅潔、袴田勝弘、中田典男、第一化学：高市松男、須賀和男、

【目的】先に本研究では、茶葉を嫌気的条件下におくと茶葉中にγ-アミノ酪酸（GABA）が増加することを認めた。そしてこの嫌気処理茶（ギャバロン茶）を高血圧自然発症ラット（SHR）に経口投与したところ血圧上昇抑制作用が認められた。今回は、同様の嫌気処理茶（ギャバロン紅茶、ギャバウーロン茶）をSHRに投与したところ、その効果が認められた。また、 $^{14}\text{C}$ -GABAを用いてその挙動を追跡し、知見が得られたので報告する。

【方法】嫌気処理して得た茶50gを1000mlのイオン交換水の熱湯で1分間浸出し、試料液とした。9週令オスのSHRラット（200～220g）を1群10匹として、対照区①：イオン交換水、対照区②：普通紅茶、対照区③：普通ウーロン茶、試験区①：ギャバロン紅茶、試験区②：ギャバウーロン茶の5群として投与した。これとは別に、 $^{14}\text{C}$ -GABA

（0.05mCi/0.5ml）をラットに投与し、ホールボディオートラジオグラフィを行った。

【結果】(1)SHRラットにギャバロン紅茶およびギャバウーロン茶を経口投与すると、飼育初期血圧（9週令）は150～160mmHgであったものが13～14週令には対照区①②③とも170～180mmHgで、試験区では150～160mmHgであった。このSHRラットをこのままの状態ですべて20週令まで飼育後、試験区と対照区を交換すると、投与後1～2週間で150～160mmHgだったものが180mmHgに上昇し、180～190mmHgだったものが160mmHgまで減少した。

(2)ホールボディオートラジオグラフィを行ったところ、投与1時間～5時間で、急速に胃から肝臓に移行しているのが明らかとなった。